

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第18号 2020. 8.10 発行

縄文住居の完成を祝う会

宴に先立って縄文住居の完成を祝って祝詞をあげて神様にご報告。住居の中では密集を避けて数人単位でしか入れませんでした。祝詞に続いて、四本の柱と焚火にも塩とお神酒をかけてお祓いをしました。

実際に住んで生活する訳ではありませんが、家内安全には、堅牢な建物と火は重要な要素に違いありません。縄文人にとって、住居がどれほど重要なものであったのか計り知ることはできませんが、風雨が凌げ、家族が安心して暮らせる空間は何よりも貴重なものであったに違いありません。

この住居の中での当時の暮らし振りを想像していると、一緒に暮らした人数は？ 家族構成は？ 誰と？ どこで寝ていたの？ 家の中では何をしていたの？



と次から次へと妄想が広がっていきます。謎だらけの縄文人の生活を想像していると、今度は縄文人のルーツも気になってきました。朝鮮半島からの渡来人？ それとも以前から日本列島に住んでいた民？ その民はどこから来たの？・・・妄想から出現した謎がより一層深まっていきます。縄文住居というハードウェアから、縄文文化のソフトウェアを探ることも楽しみになってきました。

◆ 豪華ジビエ料理による宴のはじまり

秋澤さんに下準備してきていただいた野菜と味噌で猪汁、井手さんからいただいた鹿肉+猪肉で焼肉と普段では味わえない豪華な宴です。“暑い日に熱いものを食べて暑さを制す！”となったでしょうか。



◆ 山風（やまなぎ）出現に驚く参加者たち

予想外のパフォーマンスに一同ビックリ。
デザインも縄文らしくあたたかも出土品のようでしたが、
こういった楽しみ方があることも新たな発見です。

工作好きが多い倶楽部メンバーなので次回は
また違った小道具や備品が増えているかも
もしれません。 自然と共存して暮らしていた
古代の人たちは、自然現象を神の仕業として
崇拝の対象としていたのではないかと思います。
現代でもなかなか治療薬が創り出せない
新型コロナウイルスに『山なぎ』ならぬ



『病なぎ（やまいなぎ）』が現れてくれて、一日も早くこの感染を鎮めてくれればと切に願います。

◆ みなさんお疲れ様でした

途中退席の方もいましたが、教育委員会
の佐野さんを含め 30 名弱の人たちに完成の
祝宴に集まっていただきました。

最後は縄文の衣装を羽織って記念撮影。
こんなものまで用意されているとは夢にも
思いませんでした。

一年間の苦勞で皆の笑顔が少しは縄文人に
近づいたように見えてくるのが不思議です。
八ヶ岳の自然の中で暮らすという事は
縄文人の暮らしにヒントがあるのかも
もしれません。



◆ 『縄文住居をつくる会 Vol. 2』 説明会開催のお知らせ

すでに多くの方からは活動継続の意思表示をいただいておりますが、次回から梅之木遺跡でのわれわれの活動を北杜市のボランティアポイントの対象としていただけることになりました。

9月から次の活動を開始する予定にしていますが、それに先立ってボランティアポイントの詳細、および今後の活動予定について総会を兼ねた説明会を開催いたします。

現在、事務局の中村さんにボランティアポイント実施にあたっての詳細を確認していただいております。確認でき次第、9月以降も継続して参加を予定されている方々には、説明会の開催案内をお知らせしますが、今から皆さんのスケジュールに入れておいていただけると幸いです。

<<現時点の説明会開催予定>>

日時：8月29日（土曜日）9：00～11：00

場所：梅之木遺跡展示室（人数によっては場所を変更する可能性があります）

参加予定：『縄文住居をつくる会 Vol. 2』に参加を予定されている方

（ボランティアポイントの申し込みに際し、登録手続きが必要となりますので、できるだけ参加していただけるようお願いいたします。なお、当日都合の悪い方には別途メール等で連絡いたします。）